国立大学法人 岩手大学 IWATE UNIVERSITY

社会教育職員フォローアップ研修2025　実施概要

（令和7年度社会教育士フォローアップ研修）

趣旨

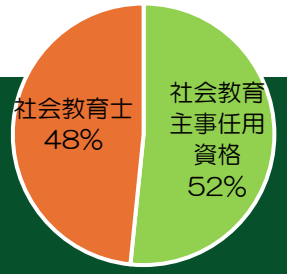
社会教育に課せられる現代的課題や北東北が抱える地域的課題に対応した**学習環境の醸成・計画及び立案**、**事業遂行のためのマネジメント**、**地域や多様な機関等のコーディネート**の資質向上を図る。



「ヨコのつながり」を軸にした講義・演習・交流を通じて、社会教育の経験・知識・人脈の輪が広がることで、社会教育職員の資質を底上げする

受講者の構成

岩手県・秋田県・青森県在住：
計30名



日程・内容

①オンデマンド教材による研修学習：12月15日（月）～26日（金）

■東北地方の社会教育の系譜（岩手大学准教授　深作 拓郎）
明治期以降の東北地方の地域開発に伴う人々の暮らしと教育の関係性について概説。

■社会教育に求められるファシリテーションスキル
（岩手県生涯学習振興協会　佐々木 勉氏）
社会教育にファシリテーションスキルが求められる背景に触れ、ファシリテーションの理論を概説。

②対面による実践的スキルの演習：12月26日（金）

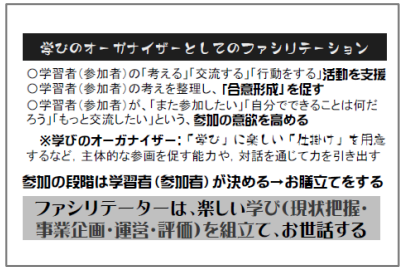
■社会教育に求められるファシリテーション技法
（岩手県生涯学習振興協会　佐々木 勉氏）
受講者が日々の実践で抱えている課題を6つ抽出。受講者は、共感するテーマのグループに入り、午前はプレゼン方法について検討。午後は課題解決に向けたアイデア出しのファシリテートを複数回実践した。
ファシリテートをする側・される側の両方を体験することで、ファシリテーションの具体的な技法習得につながった。

③交流会「社会教育への誘い」

④社会教育実践で生じる課題・悩み・葛藤・喜び：12月27日（土）
（岩手大学名誉教授　新妻二男氏、岩手県立生涯学習推進センター所長千葉憲一氏、秋田県教育庁生涯学習課　渡辺智一氏、久慈市立三崎中学校　今野健史氏、室根まちづくり協議会　菅原夏希氏）
社会教育の業務や実践で抱える課題や悩み・喜びについて、３名による話題提供(行政・施設・学校分野)の後、３グループに分かれて社会教育主事(士)の課題や悩み、事業遂行のコツ、他団体との連携方法等について意見交換を行った。



②6グループに分かれてプレゼン方法について検討



②「社会教育に求められるファシリテーション技法」佐々木勉氏　資料



④「社会教育実践で生じる課題・悩み・葛藤・喜び」今野健史氏　資料



④「社会教育実践で生じる課題・悩み・葛藤・喜び」3グループに分かれての意見交換

国立大学法人 岩手大学 IWATE UNIVERSITY

社会教育職員フォローアップ研修2025　実施概要

（令和7年度社会教育士フォローアップ研修）

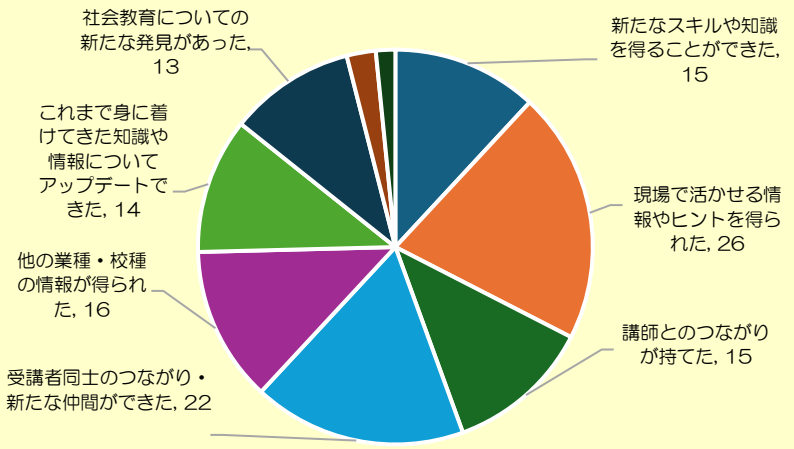
受講アンケート

（受講者30名中29名回答）

学んだ内容で今後の活動に活かしたい点について(抜粋)

・人との繋がりの重要性を改めて感じました。自分なりに、社会教育士の使命として「対話」の場を作り続けること、そして関わる方々自身が問いを持つこと、または、問を持つことに前向きになれる意識を引き出していけるようにしたいなと感じました。ほんの少しの興味を引っ張りだして、その時のテーマのそばに持っていくスキル、方法を自分の実践の中で蓄積していきたいと思います。今後は、まちづくり、学校教育、家庭教育などの現場で「対話」創出に挑戦していきます。
・「楽しい」「参加してよかった」「話せてよかった」と思える場面を意識して創出したいと思う。
・実際の社会教育に携わっている方の事例紹介が参考になった。課題・葛藤を共有することで悩んでいるのは自分だけではないと感じ、やる気につながった。
・さまざまな現場で社会教育に携わる方々と繋がることができ、それぞれの実践や葛藤などを知ることができたので、今後、自分たちの活動の中でヒントや協力をいただきたい時に、出会えた仲間に連絡を取って頼ってみたいと思います。

受講して良かった点について（複数選択）



成果

◎新たな教育方法の習得

・社会教育主事講習（A講習）では深めきれなかった具体的な社会教育の手法(ファシリテーションスキル)について、理論と実技を交えて習得することができた。

◎多様な立場の社会教育人材のつながりと学びほぐし

・行政や施設で勤務する社会教育主事に留まらず、地域や学校で活動する社会教育士が、それぞれの立場が抱える課題や葛藤を語り合うことにより、相互理解が深まり垣根を超えたつながりが構築できた。
・社会教育主事講習や社会教育主事課程で理論等を習得しつつも、実践において生じる課題や悩みを受講者同士で語り合うことで、受講者自身の省察へ発展している様子が窺えた。

課題

▼地域で活躍する社会教育主事・社会教育士への広報

・北東北3県教育委員会を通じて広報したほか、過去2年の社会教育主事講習（A講習）受講者へフォローアップ研修について募集を行ったが、過去2年のA講習受講者の参加が大半を占めた。
地域で活躍する社会教育関係者の参加促進が課題である。

▼研修時期の設定

・年末時期の開催設定は、学校関係者は参加しやすかったものの、行政職は参加を躊躇したとの意見があった。積雪による交通課題もあることから、開催時期について検討が必要である。

今後の展望

◎北東北3県を紡ぐ社会教育人材のネットワークの構築

社会教育主事講習受講者（各年度毎）のネットワークは一部構築されているが、限定的である。国立教育政策研究所社会教育主事講習（B講習）や社会教育主事養成課程修了者も紡いだ社会教育人材のネットワーク構築を目指す。

◎有資格者が主体となり、北東北国立３大学とタッグを組んだ「リスキニング」機会の創出

有資格者らによるネットワークがより主体的となり、実践上の課題に即したスキルアップの機会を北東北国立3大学と協働で実施できるように取り組む。

